

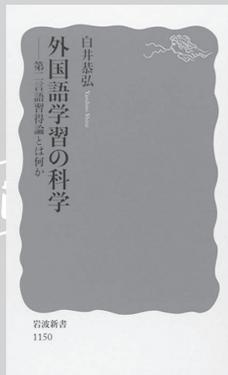
春休みに向けた 語学学習のススメ

せっかくの春休み、2ヵ月もあるんだから何か新しいことを始めたい……でも何を始めたらいいのか分からない！ そんな暇を持て余す（かもしれない）京大生諸君に向けて、ここに語学学習のススメを提言したい。二外の延長でやるもよし、新しく何か始めるもよし。初心者から上級者まで、ぜひこの記事を活用し、語学を通じて自分の世界を広げてみてはいかがだろうか。（文：J\ イラスト：みずおにぎり）

本



▲『これならわかる 中国語文法』(NHK出版) 本体3,300円+税



▲『外国語学習の科学：第二言語習得論とは何か』(岩波書店) 本体720円+税

古今東西あらゆる知識の集積である本。それは語学においても例外ではなく、勉強と言ったら、まず京大生にとって外せないのは本だろう。事実、語学学習に関する本は非常に多く出版されており、よほどのマイナー言語でない限りは、文法書に困ることはないはずだ。今回はその中のほんの数冊を紹介するが、読者の諸君には色々なものを比較検討したうえで、ぜひ自分に合った1冊を見つけてほしい。

「これならわかる」シリーズ (NHK出版)

ラジオ講座のイメージが強いNHKだが、実は語学書の方もかなり充実している。著者には実際その分野で働く専門家を採用しており、単なる文法だけではなく、**学習者の疑問点や専門的な知識等もカバーしてくれるところが強み**。NHK出版では、これ以外にも習熟度に応じて様々な語学書が出版されているので目を通してみたいだろう。

『外国語学習の科学：第二言語習得論とは何か』 (岩波書店)

外国語を使いこなせたらカッコいいけど、中々上手くいかない。そんな思いをしている人は多いのではないだろうか？ 本書は、「**第二言語習得 (Second Language Acquisition = SLA)**」論と呼ばれる、様々な学問分野を融合して効率的な外国語学習を解き明かすという学問分野を専門とする著者が、その理論から実践までを一般学習者向けに分かりやすく解説してくれている。文法書ではないものの、**学習前に読んでおいて損はないだろう**。

ラジオ



▲VOA Learning EnglishのHP。ポッドキャストはどれも30分ほどの長さで、毎日更新されている。これでも物足りないという人は、BBCやTEDの公式ポッドキャストを利用してみたいだろう。

自宅にいながら世界中の膨大なコンテンツに触れることができる点は、YouTubeの最たる魅力だ。英語以外の言語については、それぞれに膨大な学習動画があるため割愛させていただき、今回は英語学習に重きを置いて紹介する。

WIRED

アメリカの雑誌「WIRED」が提供するYouTubeチャンネル。視聴者からの疑問に、その領域の専門家が回答していくチャンネルで、日本語版チャンネル「WIRED.jp」も存在する。**エンタメ感覚で英語のリスニングをすることができる**。

TED

各分野の専門家によるスピーチを公開しているYouTubeチャンネル。リスニング教材としても名高く、学校などで視聴したことがあるという人も多いだろう。アプリもあり、そこでは動画に加えてポッドキャストも聴くことができる。

アプリ



▲J\ (文担当) のDuolingo。連続日数を記録してくれるので続けやすい。



お次はアプリ系。その手っ取り早さと手の出しやすさが魅力で、継続をサポートする機能も豊富である。今回はその中から2つ紹介する。

Duolingo

紹介されずとも既に入れている、という読者も多いのではないだろうか？ Duolingoの魅力はなんとと言っても、**40ヵ国語収録**というその多さ。マイナーだから学べないなんて言わせない、という気概を感じる。

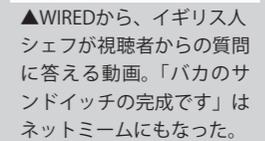
ELSA

発音に特化したAI英会話アプリ。こちらの発音を聞き取ってネイティブの発音と比較し、間違っている部分を指摘してくれる。自身の「**ネイティブ発音度**」を測定してくれる機能もあり、ネイティブのような英語の発音を目指したい人におすすめ。

YouTube



Gordon Ramsay Answers Cooking Questions From Twitter | Tech... 3173万回視聴・7年前



元FBI捜査官が教える、ボディランゲージから相手の心を読み解く方... 124万回視聴・3年前

▼WIRED.jpから、元FBI捜査官が教えるボディランゲージの読み解き方。英語学習だけでなく、純粋にエンタメとしても楽しむことができる。

京大では、第二外国語としてドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・アラビア語・ロシア語・イタリア語・朝鮮語の8カ国語を選べるのは周知の通りだが、実は全学共通科目や文学部専門科目としてこれ以外の言語を学ぶこともできる。独学で学ぶのに限界を感じているという人は、これらの授業を受講し、京大が持つ豊富なリソースを利用してしまおうのもアリだろう。なお、所属学部の必要単位や他学部聴講の詳細については、各学部の履修要綱を忘れずにチェックしておこう。

全学共通科目

全学共通科目としては、ラテン語とギリシア語があり、それぞれ「ラテン語A（前期）・B（後期）」、「ギリシア語A（前期）・B（後期）」として開講されている。いずれも人社会で、全学部・全回生向けであり、授業内容も初学者を意識して組まれている模様。AとBはどちらも履修するのが望ましいとされているが、自分の興味や他授業との兼ね合いに応じて、とりあえずどちらかを履修してみるというのも悪くないだろう。例えばラテン語は、現在のスペイン語やフランス語の派生元でもあるため、これらを理解する上での助けになることも期待できる。授業内容は年度によって変わりうるため、履修前には必ずシラバスを確認しておこう。



文学部専門科目

文学部専門科目としては、サンスクリット語・ブルガリア語・古教会スラヴ語・インドネシア語・満州語……その他多数という、多くの講義が開講されている。比較的マイナーな、人によっては初めて耳にするだろう言語も扱われているが、例えば古教会スラヴ語は最古のスラヴ言語であり、現在のインド・ヨーロッパ語族にも強いルーツを持っている。また、東南アジア諸国の言語は、主に文学部専門科目として開講されているため、東南アジアに興味がある人も要チェックだ。1回生から履修できるものも数多くあるため、第二外国語ならぬ「第三外国語」としてこれらを選択するのもアリかも……？ 全学共通科目と同様、履修前にはシラバスをよく確認しておこう。



実際に外国語を話してみる機会は欲しいけど、留学は少しハードルが高い……そう思っているあなたには、大学内で行われている国際交流系プログラムがオススメ！ あまり知られてはいないが、実は大学で行われているプログラムの中でも、キャンパス内で完結するものは数多くある。今回はその中の数例を紹介するとともに、実際に参加していた編集部員の1人に感想を聞いてみた。

多文化共修セミナー

国際高等教育院が主催する国際教育プログラムの1つ。2024年度は既に、第1回として韓国の延世大学の学生との交流イベントが、第2回として中国の諸大学の学生との交流イベントが開催されており、いずれも吉田キャンパス内で特別講義や討論会が行われた。第3回は1/10（金）に、パデュー大学/香港城市大学の日引俊詞教授をお招きし、「グローバルに羽ばたく：言葉の壁を越える智慧」をテーマに講演会が行われる予定だ。事前応募必須なので、気になる人はKULASISをチェックしてみよう。

International Networking Meeting

留学生と在学生との活発な交流を目的とし、国際高等教育院附属国際学術言語教育センター（i-ARRC）が主催している交流会。2024年度後期は、10月～12月の毎週月・金曜日、昼休みに国際高等教育院1階エントランスホールにて開催されていた。事前申し込みは不要で、気軽に留学生と英語で話すことができるのがポイントだ。会場では、他にも日本語・外国語会話クラブ（定期開催）や、協定校ひろば（不定期）という留学生との交流会が開かれている。興味がある人は、KULASISあるいはi-ARRCの公式HPを確認してみよう。

学校での英語の授業や勉強では、スピーキング以外の比重が大きい上、スピーキングは他の技能とはまた違った練習が必要だと感じていたので、4月からInternational Networking Meetingに参加していました。拙さを気にせず、即座に英語で返す訓練を毎週無料でできるのは非常に有益だと感じました。英会話が上達するのはもちろん、留学生と友達になれたり、様々な海外事情を得られたりと、いいことづくめなのでおすすめです。



▲「海外留学を希望する京大生へ」（京大公式HP）。海外留学に興味がある京大生にはこちらがオススメです。



コラム①

編集部員に聞いてみた！ズバリ、継続のコツとは？

張り切って始めてみたはいいものの中々続かない……言語学習に限らず、そんな人は多いのではないだろうか？ そこで今回は、言語学習を継続してきた実績のある編集部員2人にインタビューをし、そのコツを聞いてみた。ぜひ自分の勉強に活用してみたい。



言語学習は、趣味と繋げることも継続のコツだと思います。僕は野球が好きなので、受験生の頃息抜きも兼ねてMLBのニュースを英語でほぼ毎日読んでいました。そのおかげで英文を読むスピードが上がり、英語への苦手意識を減らすことができました。何度も触れることが大事なので、興味を持てるテーマから入ってみることを僕はオススメします。

NHKラジオの「基礎英語」などの番組を、小5から高3まで聴いていました。学校の授業の一步先のレベルを保ちながら少しずつ上達できたと思います。私は、英語で日記をつけました。思うように書けず、例えば「受け身が表現できたらな……」と困っているときに受動態を習ったので感動してすぐ習得できました。できる喜び以外に、できない悔しさを知るためにもアウトプットが有効だと思います。



コラム②

京都大学国際教育交流課公式LINEを追加してみよう



▲京都大学国際教育交流課（海外留学）公式LINE。留学に限らず、様々な国際プログラムを紹介してくれる。



候補がたくさんありすぎて、何から始めたらいいのか分からない人は、まず情報収集から始めてみるのはいかがだろうか。京都大学国際教育交流課の公式LINEでは、名前に「海外留学」と書かれてはいるものの、短期・長期留学の情報だけでなく、先に述べた学内・学外の国際プログラムから、留学に係る奨学金、相談窓口の紹介も行っており、定期的に情報を提供している。KULASISの「Information」から自分で情報を探るのは大変なので、こちらも活用してみたい。なお、国際教育交流課（IESMD）の事務室自体は、吉田南構内の国際高等教育院棟（ILAS棟）2階202号室に位置する。資料閲覧や学生OA（ピアチューター）による留学相談など、様々なサービスを提供しているようなので、一度訪れてみるのもいいだろう。